

エコサイクルシティ講座 第3回

世界の自転車まちづくり について知ろう！



木舟 周作

今日の予定

1. 自己紹介
2. 自転車の機動力
3. 世界中で使われている自転車
4. 日常の足としての自転車
5. 生活の糧としての自転車
6. 冒険の手段としての自転車
7. まとめ

1. 自己紹介

氏名

木舟周作（きふねしゅうさく）

国籍

日本

性別

男

年齢

33歳

家族

妻・長男（0歳）

訪問国数

約70ヶ国

好きな言葉

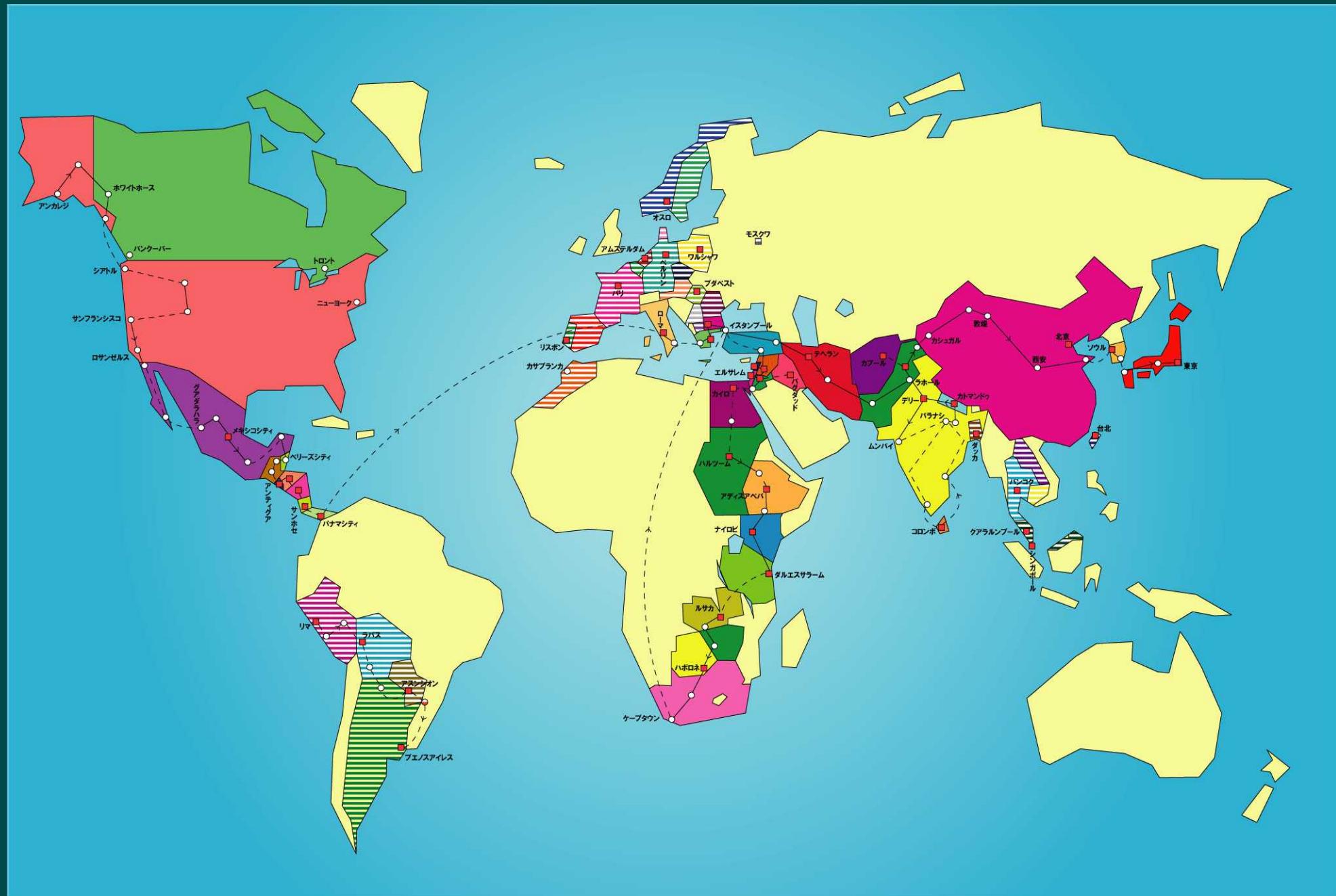
色即是空

略歴

学生時代にサイクリング部に所属、
自転車の楽しさに目覚める。
卒業後、3年半の会社勤めを経て、
世界一周自転車旅行に挑戦。
現在、旅行会社勤務。



経路：アメリカ→ヨーロッパ→アフリカ→アジア



期間：2001年5月～2003年11月

予算：約200万円

世界一周の装備

自転車：10キロ
荷物：20キロ

右サイドバッグ
(水、食料、
コップヘル、…)

マウンテンバイク
(空気入れ、
ボトル、…)

ウェストポーチ
(カメラ、
筆記用具、
地図、…)



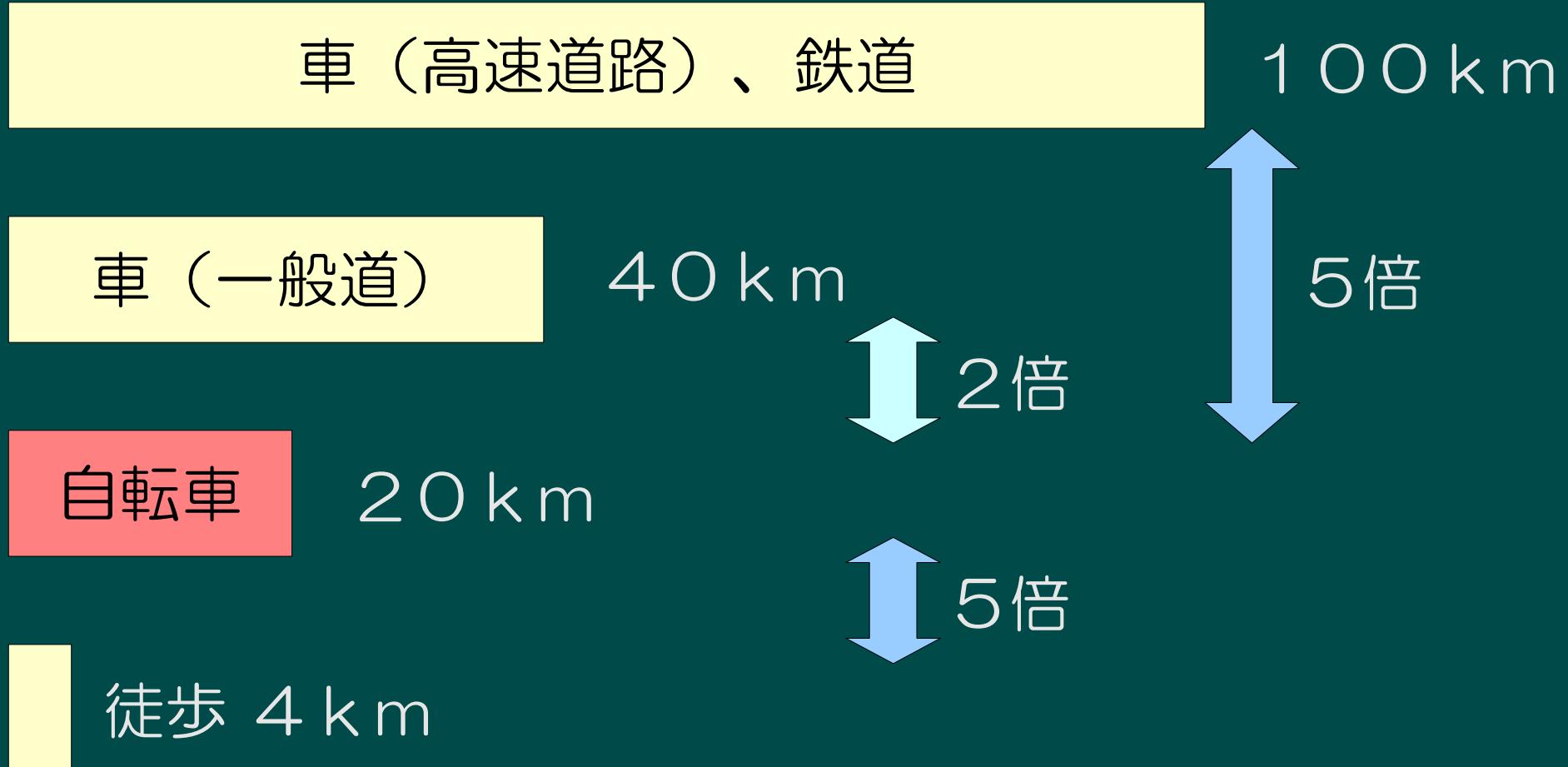
左サイドバッグ
(工具、合羽、
ガソリンコンロ、…)

ザック
(テント、寝袋、
着替え、洗面用具、
日記帳、輪行袋、…)

人間が生きていくのに
必要なものは、案外少ないのかもしれない

2. 自転車の機動力

自転車の移動速度



自転車は景色を眺めるのに最適で、
かつ意外に機動力もある

平均時速20km、朝から夕方まで、
休憩時間を充分にとって、どのくらい走れるか



地形や風向き、交通事情などの諸条件によるが、
1日あたり100~120kmが目安となる

安城市を基点に考えると



<西>

名古屋	24. 7 km
四日市	61. 9 km
亀山	83. 3 km
甲賀	116. 9 km
京都	163. 7 km
大阪	210. 9 km

<東>

豊橋	37. 2 km
浜松	78. 8 km
掛川	104. 0 km
静岡	153. 0 km
富士	191. 5 km
小田原	254. 3 km
東京	351. 6 km



3. 世界中で使われている自転車

自転車と聞いて思い浮かぶのはどこの国？

イタリア？



フランス？



それとも中国？

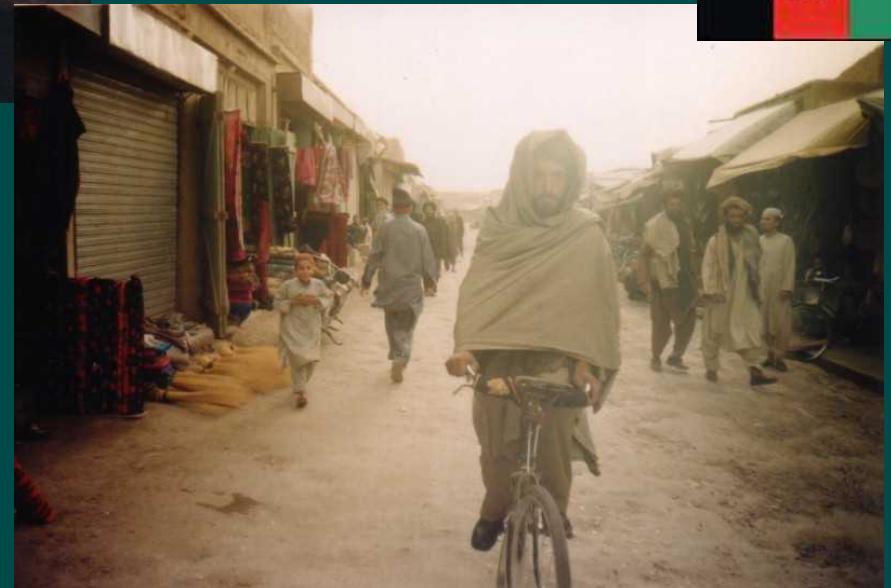
世界中のあらゆる国に、自転車はある



最貧といわれる
エチオピアにも



内戦で疲弊した
アフガニスタンにも



4. 日常の足としての自転車

たとえば
アメリカの地下鉄



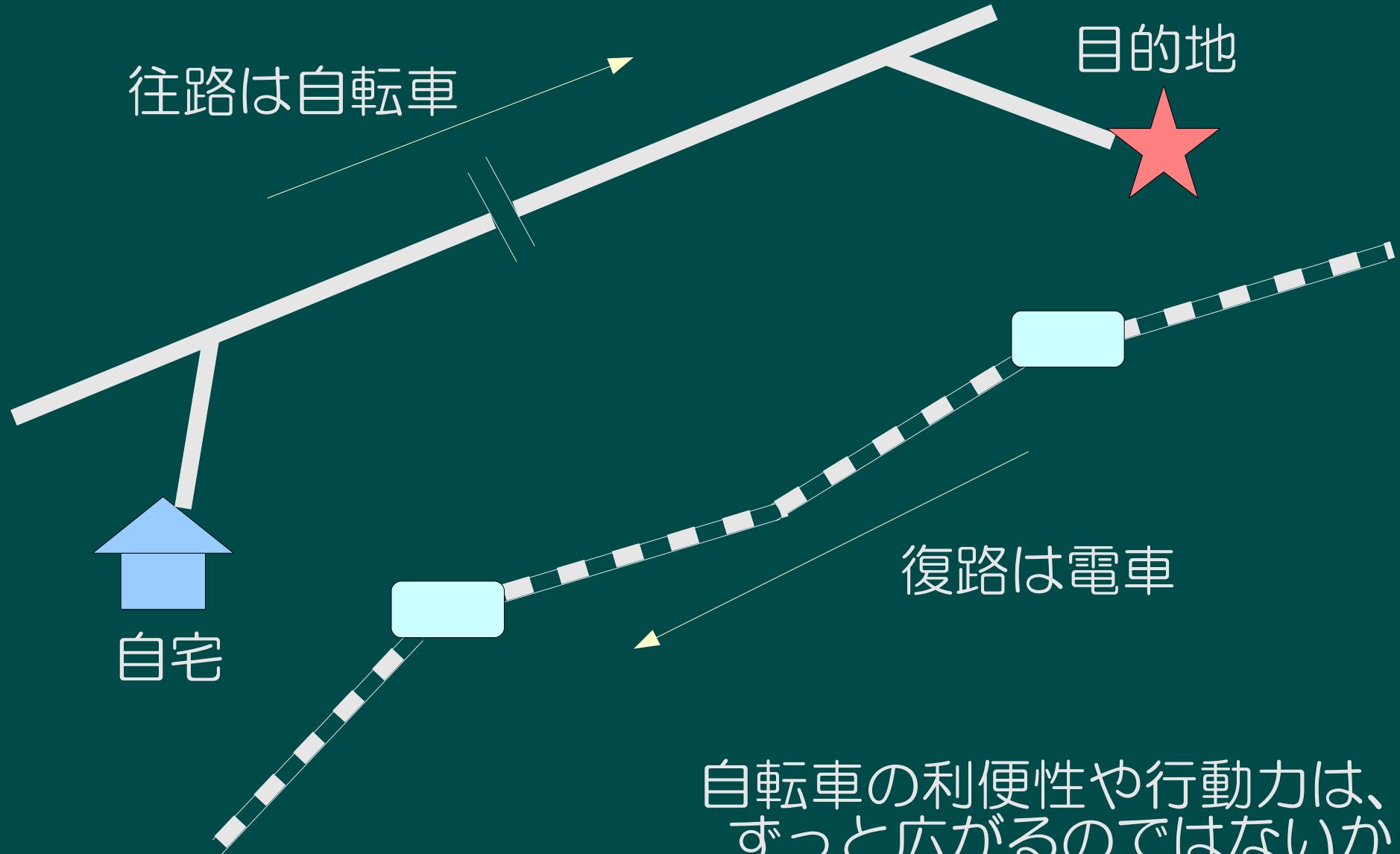
車両にそのまま
自転車を載せられる

あるいはパキスタンの公共バス



屋根の上に自転車を載せることができる

もっと気軽に自転車を電車や
バスに載せて運ぶことができれば



5. 生活の糧としての自転車

たとえばインドのサイクルリキシャ



庶民の足、観光客の足として活躍

あるいはザンビアの行商人



中国製のタンデム自転車に魚を積んで走る

その国の風土や経済事情に
あった自転車の使われ方がある



たとえばボリビア
1人あたりGDP
＝3049ドル
(日本の1／10)

でも、豊かな日本が
見習うべきところもあるのでは？

6. 冒険の手段としての自転車

たとえばアルジェリア人のチャリダー



ラホールからデリーまで行動を共にした

自転車で旅している人は世界中にいる



自転車だからこそ
見えてくるものは何か

列車やバスに頼らず
自分の力でどこまでできるか



7. まとめ

自転車の魅力ってなんだろう？

